

令和3年度第1回 宗像市健康づくり推進協議会議事録

日 時：令和3年12月13日（月）
19時00分～20時10分
場 所：市役所北館2階202会議室

出席委員：小川委員、伊東委員、栴田委員、吉田委員、中谷委員、平尾委員、一ノ瀬委員
石松委員、力丸委員、陣内委員、高木委員、今西委員
事務局：【健康福祉部】林田部長 【健康課】西川課長、大森係長、柴田主任管理栄養士
小樋保健師

（事務局）宗像市健康づくり推進協議会規則第5条第2項により、現在、委員15人のうち12人参加で過半数を超えるので、会議は成立。

1. 開会あいさつ

（小川会長）事務局の説明にあったように、速やかな議事進行を心掛けたいので協力をお願いしたい。
（西川課長）開会にあたり、新委員の方々もおられるので、本協議会の趣旨を説明したい。本会は、宗像市の健康づくりに関して経験・知識を持つ委員の皆様と協議し、施策に反映するための会。現在の宗像市の健康・食育計画の『健康むなかた21』『健康むなかた食育プラン』は、この協議会で協議して作成し、市の健康づくり事業を行っている。本日はその進捗状況と今後の取り組みについて報告するので、協議をお願いしたい。また、本市の自殺対策推進計画についても報告する。

2. 委嘱状交付

異動等により、委員が欠員となった団体から新委員を選出した。市長に代わって健康福祉部長より委嘱状交付（感染症対策のため机上へ事前配布）

3. 委員紹介

（着席順で自己紹介）

4. 職員紹介

（市職員紹介）

5. 議事録署名人について

（小川会長）議事録署名人を昨年度からの続きの名簿順で、伊東委員、栴田委員の2名でよろしいか。
⇒委員から異議なしの声あり。承認。

6. 報告事項

（小川会長）報告事項について、事務局説明を

（1）市健康づくり事業について 【資料3】

（事務局 大森係長）資料3「むなかた健康ガイド」で市の健康診査、予防接種などの健康づくり事業の説明。県のふくおか健康ポイントアプリを活用した「歩いてためてトクして 宗像健康キャンペーン」の紹介。11月に市の商工部局が行う九州オルレ宗像・大島コースを歩くイベントに相乗りし、アプリを活用したウォーキングの推進に取り組んだ。

（事務局 小樋保健師）コロナ禍で市が行った活動の一部を紹介する。コロナ禍により、活動量の低下を防ぐ取り組みとして、市のホームページや広報紙、チラシを活用して自宅でできる運動を紹介している。

(2) 第2次健康むなかた21及び第2次健康むなかた食育プラン関連計画について

【資料4】 【資料5】 【資料6】 【資料7】

(事務局 西川課長) 「第2次健康むなかた21及び第2次健康むなかた食育プランの策定にあたっては、国・県の健康計画、食育計画を参考に、市の健康の課題、食育の課題について、国や県と比較し、改善の必要があるものを重点課題としている。そこで、あらためて国・県の健康計画、食育計画について紹介したい。(資料4 資料5 国・県の健康計画の説明)

(事務局 柴田) 以上説明のあった健康計画については、国・県とも、当初は平成25年から令和4年までの10年計画だったが、別計画である医療費適正化計画等の計画期間と一致させるために、計画期間を令和5年まで1年延長した。また、福岡県も同様に1年延長予定。

引き続き、国・県の食育計画を紹介したい。

(資料6 資料7 国・県の食育計画の説明)

ここで、1点、委員に諮りたい。先に説明したように、国・県の健康計画の計画期間が1年延長になることに伴い、これまで、国・県の計画策定後に策定を開始してきた市の健康計画についても、計画期間を令和6年から令和7年に1年延長したいがいかがか。

(小川会長) 今の提案について意見があれば。(なし)

ないようなので、承認する委員は拍手を。

拍手多数のため、市の計画についても1年延長で進める。

(3) 自殺対策推進計画令和元年度の実施状況について 【資料8】

(事務局 大森係長) 資料8説明。令和2年度の国の自殺の状況は、新型コロナの影響を受け、11年ぶりに増加に転じた。一方、令和2年の宗像市の自殺者は14人で、前年より減少、過去5年間の平均でも減少傾向が続いている。また、自殺死亡率は14.42で、全国より低かった。

7. 協議事項

(小川会長) 協議事項2点について、事務局説明を。

(1) 令和2年度の健康づくり・食育の取組状況および今後の取り組みについて 【資料9】

(事務局 柴田) 資料9に令和2年度の取り組み状況をまとめている。総じて、新型コロナの影響で活動が中止になっており、最低限の取り組みを各所工夫しながら進めていた。コロナ禍での工夫について、委員の方々からご報告いただきたい。

(小川会長) では、委員から報告を。

(委員) 食生活改善推進会では、調理実習に関しては、各コミュニティセンターの調理室の利用基準に従っている。例えば、調理していいが試食は禁止、試食できる場合は、しゃべらずに食べるなどのルールがあるので守っている。この状況が落ち着いたら、地域のための活動をしたいので、私たちにできることがあれば声をかけて欲しい。

(委員) 商工会も、コロナの影響でおまつりなどがなくなり、活躍の場が限られた。最近は、「クリーン作戦」という清掃活動で、会員互いの様子を聞きつつ活動した。商工会もコロナ禍が過ぎたら地域に貢献していきたいと考えている。

(委員) 私の所属の技術教育、農業の栽培では、授業、実習とも工夫しつつ、ほぼ対面で行った。真夏の炎天下の農場での栽培活動という実習では、感染よりも熱中症のリスクの方が比較的高いと考え、個々人の距離をとる形でマスクなしで行うなど、リスク管理について考えさせられる機会となった。ただ、学生によって、リスク感受性が異なるので、マスクははずさないという人もいたので、

経口補水液補給などに気を遣った。また、対面授業では、大人数での授業では、意見を出す際にその場で直接発言せずに、ラインという携帯アプリのオープンチャットという機能を使い、そこで意見等を打ち込む試みをした。このやり方では、普段積極的ではない学生も意見を出したので、それぞれの考えていることがわかった。このように、試行錯誤している。

(委員) 学校では、子どもたちの実態を見ながら、コロナ予防、食育やいじめ対策等を行っている。子どもたちの発達段階を考えると、一度の説明でわかる学年、何度も繰り返し説明が必要な学年がある。また、関係諸団体から色々な協力を得て、子どもたちが健康に安全に暮らせるよう様々なことに取り組んでいる。さらに、学校が関係諸団体と連携していくために、現在コミュニティスクールを推進している。そこで、市の健康づくり推進におけるコミュニティスクールに対する考えが知りたい。学校で健康づくりを推進するためには、関係団体や地域の方々の協力が必要と考えるため、市の取り組みの方向性をお聞かせ願いたい。

(小川会長) 事務局回答を。

(事務局 西川課長) コミュニティスクールに関して、現時点では、健康福祉部が直接大きく関わることはなく、教育委員会と各コミュニティが連携しているところだと思うが、地域によっては健康づくりを熱心に行っているところもあるので、そういう地域には部分的に関わることもある。今のところ、コミュニティスクールと大きくコラボしていくという状況ではないが、これからの課題として考えたい。

(委員) 学校からのお願いとして、是非市全体で進めていただきたい。コミュニティスクールの中で健康づくりを進めていくことで、子どもたちだけでなく、地域の高齢者をはじめ、地域全体の健康づくりになると考えている。宗像市では来年度から全ての小中学校でコミュニティスクールを開始するため、どの学校でも円滑に行うことができるよう、ご協力をお願いしたい。

(事務局 林田部長) 健康福祉部としても、地域共生社会の推進を目指しているので、学校とのつながりは重要と考えている。健康福祉の分野で今後積極的に連携していきたいと思う。

(小川会長) では、今後は市と学校で連携しながら進めていただくということで、今後何かあれば報告をお願いしたい。

(2) これからの健康づくり事業について 【資料10】

(小川会長) 事務局説明を。

(事務局 大森係長) 資料10説明。12月以降の健康づくり関連事業の市内の行事では、宗像健康キャンペーン第2弾として、ふくおか健康ポイントアプリを活用したウォーキング推進イベントを行う。詳細は1月1日号の市広報紙で告知するので、是非参加を。また、市スポーツサポートセンターでも体力測定会や各種教室を行っている。1月8日には、幻の東京オリンピック聖火リレーコースを歩く新春ウォーキング大会が企画されている。健康課の取り組みとして、3月の自殺対策強化月間に合わせ、2月にゲートキーパー養成講座を開催。コロナ時代の心の健康と題し、外出や交流の機会が減った高齢者の心の健康にスポットをあてる。市外の行事等では、3月に女性の健康週間があるので、市の広報紙の2月15日号で健康課と男女共同参画推進課で、女性の健康に関する啓発記事を掲載予定。

8. 事務連絡

(小川会長) 事務連絡を。

(事務局 大森係長) 健康づくり推進協議会について、今年度は今回1回のみ開催だったが、来年度は令和4年の6月頃と秋頃の2回の開催を予定している。またその会の開催に先立ち、本日の資料9の取り組みシートの「令和3年度」の取り組みについて、4月頃に記入のお願いをしたい。また、合わせて、今後の取り組みの確認もするので協力をお願いしたい。

10. その他

(小川会長) その他何かあれば発言を。

(委員) 今日、ふくおか健康ポイントアプリ事業を活用した取り組みについて説明があったが、県でもポイントアプリ事業を推進している。アプリ登録者は増えてきており、ポイントをためる人たちはいるが、ポイントを利用できる特典協力店の登録がなかなか増えず、県全体でも100店舗ほどしかない。せっかくポイントを貯めても使う先がないとモチベーションが上がらないという話も聞くので、特典協力店を増やしたい。飲食店に限らずサービス業、施設関係などで、例えば店の通常のポイントに上乘せポイントをつけるなどの特典を工夫してもらえればと思う。健康ポイントアプリの継続のしつこみを県としても考えていくが、市をはじめ皆様のお知恵を借りて進めたいので、協力をお願いしたい。アプリ内には他にも、食の健康サポート店という、健康に配慮した食事提供をしている店舗の情報などもあるので、活用して欲しい。

(小川会長) その他何かあれば。なければ以上で進行を事務局に返す。

11. 閉会あいさつ

(事務局 林田部長) 多忙中の協議会参加とコロナ禍での取り組みの推進に感謝したい。健康の維持ためには、規則正しい生活、適度な運動、バランスの取れた食事、加えて定期的な健康診断等が必要で、これはコロナ対策としても有効。こういったことの啓発についても推進して欲しい。行政としては、3回目のワクチン接種の準備を進めている。今後の市の事業への協力をお願いしたい。